

NPO法施行10周年・みえパートナーシップ宣言10周年事業
第3回実行委員会概要

日 時：平成20年10月9日（木）19：00～21：00

場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム

出席者：金憲裕、杉田宏、千賀さわ子、馬場基記、岡本光晃、山本康史、中盛汀、前川浩也、出丸朝代、竹村浩、亀井敬子、福西秀文

事務局：古川明郎、明石須美子、辻千賀子、富山達也

はじめに（自己紹介）

1．前回の概要について

議事概要（未定稿）を見ながら前回の議論を確認する。

2．事業の企画案の整理について

事業内容のアイデアについて、前回、意見を出し切れていないので、再度意見を出すところから始め、事業の骨格が完成するところまで議論を進めていきたい。

=事務局説明=（資料：企画アイデア（第2回実行委員会で出た意見））

- ・ 前回出してもらった意見を、10年のふりかえり、全体で考えるもの、分かれて考えるもの、アイスブレイク、活動紹介の5つのグループに分類してまとめた。

=追加の意見出し=

- ・ 、 、 と 、 は分けて考えた方がよいと思う。
- ・ の10年のふりかえりは、是非やってほしい。
- ・ の活動地図は、県のデジタルマップシステム（MGIS）を使えばできるのではないか。
- ・ 基調講演とワークショップの構成だろうと思うが、会場参加型で旗揚げをするというイメージがわからない。
- ・ 地図を見せるのはよいが、地図作りの作業は当日は必要ない。
- ・ ワークショップは発表の時間がないので、コーディネーターにまとめてもらう。ワークショップの材料はアンケート結果から出たものをヒントにすればよい。
- ・ 会場参加型というのは、流れを作る中で、アンケート結果などを使って論点を絞り、会場にも意見を聞きながら10年やってきたころを洗い出して、今後の10年間を考えるといいのではないか。コーディネーター選びが難しい。
- ・ 10年のふりかえりは、事前に実行委員会が中心となってポイントを洗い出し深めておく。当日は、これからを考えることを中心にする。分科会のファシリテーターは実行委員会が担当する。
- ・ タイトルが弱い。グループに分かれるとしたら、「はじめの一步」や「パートナーシップ宣言同窓会・検証会」、「将来を考える」などのグループがあってもいい。

【主な追加意見】

- ・ 、 、 は、メイン会場で基調講演とワークショップの流れでやり、 、 はサブ会場でやるというイメージで一致した。
- ・ アンケートの結果をもとにやりたいという意見が多かった。
- ・ ふりかえりについては、事前にやっておいて当日はこれからを考えることに注力したいという意見と、10年を知らない人もいるので当日やった方がいいという意見に分かれた。

= 具体的な事業内容について意見交換 =

大まかな事業のイメージは確認できたので、個々の取組について具体的な議論を行う。

サブ会場（ 活動紹介）

- ・ 使える場所は、イベント情報コーナー（100人）、交流スペース（60～70人）、ミーティングルームである。
- ・ NPOフェスティバルではないので、サブ会場での事業はいらない。団体紹介は、地域で考えることであり、県域の事業としては必要ない。
- ・ スペースがあればやってもいい。県域で活動しているNPOの紹介はあってもいい。
- ・ ブース展示をするための予算は、ポスター作成くらいである。
- ・ 今後の連携につながるものがあるとよい。団体カタログは今後の成果となる。
- ・ 将来の連携は、ワークショップの議論の中でつながっていけると思うので、 の充実を図っていけばよい。
- ・ パネル展示をしようと思う団体がどれくらいあるのか。団体の負担にならないか。展示するメリットがあるといい。
- ・ 対象がNPO関係者であれば、ブース展示は意味がないのではないか。
- ・ 当日のブース展示より、メイン会場に参加してもらうことが大事である。事前に準備できるカタログや地図はあってもよい。
- ・ NPOがどれくらい増えたか、活動がどれくらい広がったかというような、県内の団体の状況がわかるものはあってもよい。

【主な意見（サブ会場）】

- ・ 活動紹介は地域で考えることであるので、県域の事業では必要がない。
- ・ 事前に準備できる県内の団体の状況がわかるような資料や展示はあってもよい。
- ・ 当日はブース展示よりメイン会場に参加してもらうことが大事である。

【決定したこと（サブ会場）】

- ・ ブース展示等は当日はやらない。事前に資料を準備して参加者に見てもらう。

メイン会場（ 10年のふりかえり）

- ・ パートナーシップ宣言をよく知らないの、知っている前提でこれからの話をするのであれば、10年間の取組の説明が必要である。
- ・ 三重県の取組の説明というのは、行政のやってきたことだけではなく、社会情勢の10年も言わないといけない。県の取組と社会情勢を含めて言えば10年が語れる。
- ・ 横浜コードなど、他県の取組も含めて、こういう取組があって今があるという紹介をしてから、これからの話ができるとういので、資料を作り簡単に説明する。
- ・ 行政は県民も含めた社会情勢を視野に入れて施策展開しているので、県の取り組みに他の取組も乗せていけばよいのではないか。

【主な意見（ 10年のふりかえり）】

- ・ これからのことを議論する前提として、10年間の取組の説明が必要である。
- ・ 三重県の取組とは、行政だけでなく社会情勢も含めたものとする必要がある。

【決定したこと（ 10年のふりかえり）】

- ・ 10年のふりかえり・取組の説明は、メイン会場の最初にやる。30分程度。
- ・ 三重県の10年の取組を説明する。社会情勢、他県の取組、協働の状況など。展示や配布資料を準備しておき、10年間を皆でふりかえる。

メイン会場（ 基調講演 ）

- ・ 講師には、時間軸で10年の動きや、全国の状況、公共を誰が担うのかといったことを語ってもらえると思う。10年をふりかえり、これからを考えるとだけ伝えてある。
- ・ 全国的に今NPOがおかれている状況や今後こういうふうな方向を目指した方がよいという話をしてもらおう。これから目指していくものを問題提起してもらおう。
- ・ 活動と組織のあり方というテーマも含めるといいのではないか。
- ・ 10年間生き延びてきたNPOと、活動半ばで止めたところもある。続けられなかった原因を話してもらいたい。
- ・ NPOそれぞれの理由があって、一般的な理由を話すのは難しいのではないか。
- ・ NPOは専門性の集団である。ミッションがあるので専門性が高まり活動が成り立つ。一方で、行政の委託で人件費を認めないなど、NPOを評価する物差しがなく、お金が回ってこない。お金が回ればある程度成長できる。それをどう解決していくのかというのが、県が取り組むべき課題であり、中間支援組織でフォローしていくのが大事と思う。
- ・ 資金の課題や社会システムのことは、語られると思う。
- ・ 本来のNPOのあり方の問題も出てくる。NPOは、民間活用の代替ではなかったはずである。社会を変えるためにNPOを作ってきた。それを山岡さんの視点で見てもらう。三重県に通用しなくてもよい。
- ・ 山岡さんには、NPOはこれから何を目指していけばいいのかということで、思っていることを語ってもらいたい。

【主な意見（ 基調講演 ）】

- ・ 全国的なNPOの状況と今後目指すものを話してもらいたい。
- ・ NPOが生き延びられなかった原因の話をしてもらいたい。
- ・ 資金の課題や社会システムの課題といったことが大事である。
- ・ 本体のNPOのあり方について講師の視点で話してもらおう。

【決定したこと（ 基調講演 ）】

- ・ テーマ「NPOは何を目指して活動していけばいいのか」。1時間。

メイン会場（基調講演の後）

- ・ パネルディスカッションで三重県のNPOの話をしてもらえばよいが時間がない。
- ・ 議論は全体でするのも面白いが、参加者にフラストレーションが溜まる心配がある。
- ・ 課題に応じてテーマを選べるように選択肢は多いほうがよい。
- ・ 参加者の立場は色々で、年数や悩みも様々である。テーマ別に独立したものでよい。
- ・ 分かれたまま終わると收拾がつきにくい。再度集まろうと思うと時間もかかる。
- ・ 全体を一つの塊と考えずに、全体会と、分科会それぞれで考えればよい。成果はまとめたものを後で見ればよい。

【主な意見（基調講演の後）】

- ・ 全体で議論するのは面白いが参加者満足が心配である。
- ・ 課題に応じてテーマを選べるように選択肢は多いほうがよい。
- ・ 全体会と分科会は、それぞれ独立していてもよい。後でまとめを見ればわかる。

【決定したこと（基調講演の後）】

- ・ 基調講演のあとは、そのままテーマ別に分かれて議論する。

分科会テーマ

- ・ テーマはアンケート結果から出てくると思うが、実行委員会でも概ね予測できる。
- ・ 資金をどうつくるか。会員をどう増やすか。人材をどう確保するか。というテーマでやりたい。
- ・ 協働（行政、NPO、企業も含めて）のあり方、進め方もテーマになる。
- ・ 地縁活動との連携を考えたい。地域の自治にどう絡むかというのが大事である。自治基本条例づくりに関わっていると、テーマ型コミュニティと地域型コミュニティの連携が課題となってくる。社会の課題に対するNPOの関わり方を探りたい。NPOが自分の活動だけやっている時代は終わった。
- ・ 中間支援をどう考えていくかが、一番大事ではないか。中間支援団体の育成は県も視野に入れてやってきたはずである。
- ・ 県としてはいろんな課題を出してもらって話をしてほしいが、特に協働や、人・物・金といった基盤整備の部分での課題を出してもらえたらと思う。
- ・ 中間支援は各団体のサポート、セクター間の連携、社会を変えるという役割がある。県は中間支援を支援すると言っているが具体性がない。
- ・ 今後の中間支援のあり方やスタイルというものを語っていければいいと思う。例えば、四日市セクター会議では、市長選候補予定者に、市長直属のNPO支援の担当課をつくる内容の協定を要請している。NPOセクターが市長と協定書を結ぶということは全国的にめずらしい。

【決定したこと（分科会テーマ）】

- ・ 個別の団体の課題
資金の確保、会員の確保、人材の確保について
- ・ 連携の課題
協働のあり方、進め方について
NPOと地縁組織との付き合い方について
- ・ 中間支援の課題
中間支援のあり方

3. アンケートについて

= 事務局説明 = (資料：聞き取り・アンケートのプラン(案))

- ・ 前回の意見から、なぜ実施して、どう役立てるのか、対象、明らかにしたいこと、手段、範囲、をまとめた。スケジュールは、アンケート結果からテーマを見つけるのであれば、検討が必要と思う。
- ・ 団体として回答するのか、個人として回答するのかで設問が違ってくるので、2つの案を作成した。

= 意見交換（アンケート） =

対象者

- ・ 対象者は、10年以上と限定すると9年の人が入らなくなるので曖昧にしたほうがよい。
- ・ クロス集計をかけるのであれば、フェイスで聞けばよいので、対象で絞らなくてよい。
- ・ 年数の浅い団体を対象とすると「これまでの10年がどうだったのか」という設問が消えてしまう。
- ・ 年数が浅くて活動はしていない人でも、わかる範囲で書いてもらえる。ボランティアなど、何らかの形で関わっていたと思われるので、10年で区切る必要はない。
- ・ 送付先は法10周年なので、NPO法人でよいのではないか。

質問は個人向けか団体向けか

- ・ 質問は個人向けとし、個人の立場で団体のことを書いてもらう。団体として答えるのは難しい。
- ・ 会員でも答えてよいことにして、会員、代表者、事務局等を選べるようにする。
- ・ 組織に送れば、代表者か事務局が書くことになる。然るべき人が個人の立場で書く。会員が書くことは想定できない。
- ・ 代表者宛に送れば、代表者として書いてくれる。

テーマ・設問

- ・ アンケートのテーマは、資料のとおり大きく「あなたにとって10年はどうだったか。三重県はどうだったか。」の二つとし個別質問で具体的に明らかにしていけばよい。
- ・ 分科会でやりたいことがあれば、アンケートでこれを聞きたいというのが出てくる。

結果の活用

- ・ アンケート結果は、それぞれの分科会の材料として使う。
- ・ 分科会は、想定したテーマで分かれて深めた議論をしたいと思っている。アンケートの結果は、議論を深める材料になる。
- ・ 行政上も役に立つものができると思う。

【決定したこと（アンケート）】

- ・ 対象は10年以上活動をしているというような限定はせずに、法施行10周年ということからNPO法人を対象とする。
- ・ 代表者宛てに送付し個人の立場で団体のことを答えてもらう。
- ・ テーマは「あなたにとって10年はどうだったか。三重県はどうだったか。」
- ・ 結果は分科会で議論を深めるための資料として活用する。

《今後の日程》

次回 10月20日（月）19:00～21:00 交流スペース

- ・ 分科会案を事務局から示すので、メールで意見を出してほしい。また、担当したいテーマの分科会があれば立候補してほしい。（金憲裕さんが中間支援の分科会の担当に立候補された。）
- ・ アンケート内容についても事務局から送るので、メールで意見を出し合って、次回までに内容を固める。
- ・ 次回はアンケート内容を最終決定して発送できるようにするとともに、分科会の内容、担当、発表者まで決定したい。